

大崎麦作情報 第2号

～今後の管理のポイント～

- 麦踏みを複数回実施し、生育量を調節しましょう。
- 生育ステージと生育量を確認し、追肥を行いましょう。
- 明きよ・暗きよの再点検を行いましょう。

1 気象経過

- ・気温は、10月第5半旬に低温となりましたが、11月まで概ね平年並みで推移しました。12月第4・5半旬に高温、1月第5・6半旬は低温となりました。
- ・日照時間は、11月第1・3・4半旬に多照となったものの、概ね平年並で推移しました。
- ・降水量は、10月第3・4・6半旬、11月第1半旬に多雨、11月第2～第6半旬は少雨となりました。年明け以降は少雨～平年並で推移しました。12月第6半旬以降に降雪はあったものの、まとまった降雪はなく、根雪はほとんどありませんでした。

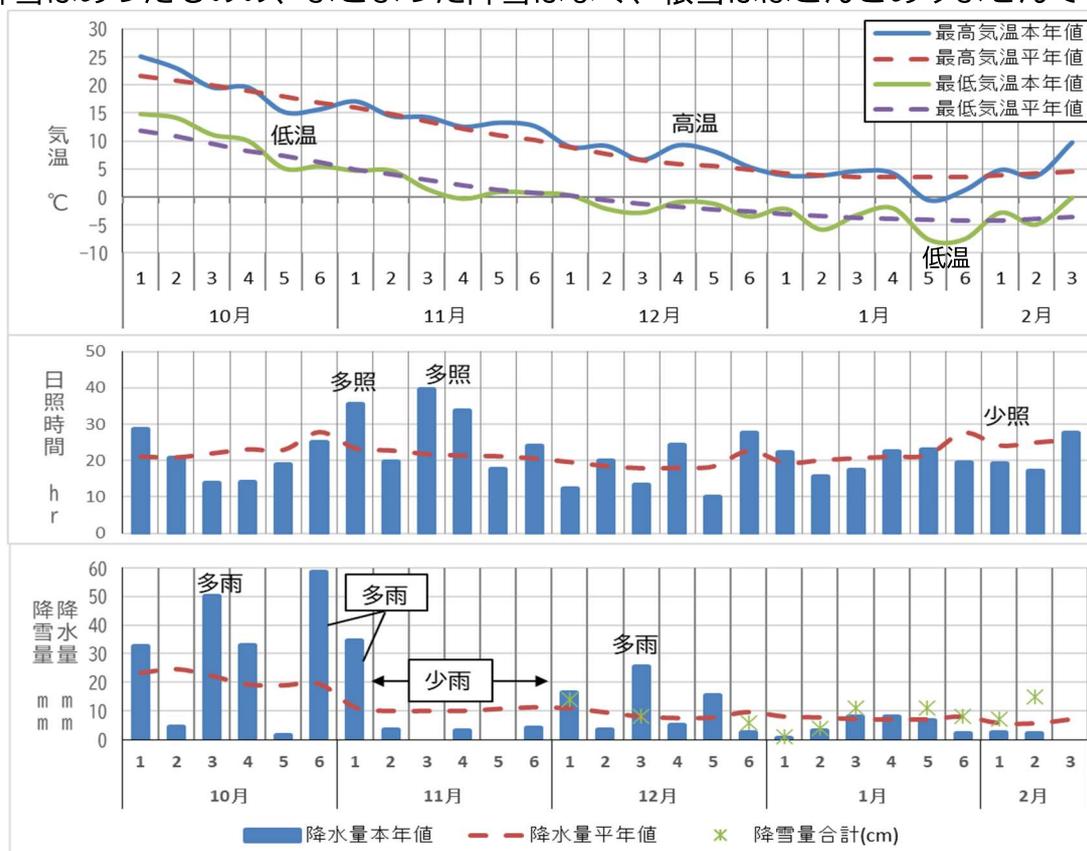


図1 10月から2月第3半旬までの気象経過 (古川アメダス)

※ 実線又は棒グラフが本年値、点線は平年値

2 生育状況(12月15日、2月10日調査)

○小麦「夏黄金」

- ・播種時期は降水が多く、播種晩限(10月20日)を過ぎた11月8日の播種となりました。
 - ・前作が水稻乾田直播の草丈は、12月15日で8.1cmでしたが、表面部分が鳥害を受け、2月10日調査(2月12日実施)では、8.0cmとなりました。
 - ・茎数は、12月15日調査では、年内の目標である400~500本/m²を大きく下回る188本/m²で、その後も分けつは発生したものの、2月12日調査では256本/m²でした。
 - ・幼穂は2月12日時点で確認できませんでした。
-
- ・前作が子実用トウモロコシの草丈は、12月15日で8.1cmでしたが、車通りの多い道路に面していないためか、前作乾田直播のほ場よりも、ほ場全体の鳥害が大きい状態で、2月10日調査(2月12日実施)では、8.1cmとなりました。
 - ・茎数は、12月15日調査では、186本/m²で、2月12日調査では298本/m²にとどまっています。
 - ・幼穂は2月12日時点で確認できませんでした。



写真1 草姿(2月12日撮影)
(前作水稻乾田直播)



写真2 草姿(2月12日撮影)
(前作子実用トウモロコシ)

地区名 品種名	前作	比較	播種日	12/15				2/10			
				草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂長 (mm)	葉色 (GM値)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂長 (mm)	葉色 (GM値)
古川 夏黄金	水稻乾田直播	本年	11/8	8.1	188	-	-	8.0	256	-	42.0
古川 夏黄金	子実用 トウモロコシ	本年	11/8	8.1	186	-	-	8.1	298	-	42.6

表1 生育調査結果

注) 平年差・比は、過去5か年(令和3年~令和7年産)の平均値との比較

※ 生育指標は cm 草丈×茎数/m²×葉色値(×万)で幼穂形成期(幼穂長2~3mm)目安は86万。

○小麦「シラネコムギ」

- ・播種は、平年より1日遅い10月22日となりました。
- ・草丈は12月15日で13.8 cmでしたが、ほ場全体が鳥害を受け、2月10日調査（2月12日実施）では、3.1 cmとなり、平年比27%となりました。
- ・莖数は、12月15日調査では、年内の目標である400～500本/㎡を下回る233本/㎡で、その後も分けつは発生したものの、2月12日調査では平年比29%の261本/㎡でした。
- ・幼穂長は2月12日時点で0.5 mmと、平年並みでした。



写真5 草姿 (2月18日撮影)

根は張っており、分けつの発生も見られる。

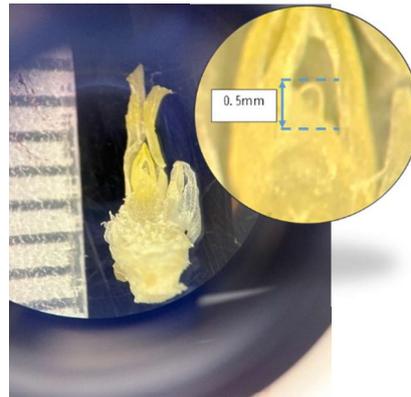


写真6 幼穂長の計測
(2月12日撮影)



写真7 生育概況
(2月18日撮影)

地区名 品種名	前作	比較	播種日	12/15				2/10			
				草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	幼穂長 (mm)	葉色 (GM値)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	幼穂長 (mm)	葉色 (GM値)
古川 シラネ コムギ	小麦	本年	10/22	13.8	233	-	46.4	3.1	261	0.50	-
		前年差・比	3日遅い	109%	35%	-	100%	31%	19%	+0.03	-
		平年差・比	1日遅い	105%	53%	-	-	27%	29%	+0.24	-

表2 生育調査結果

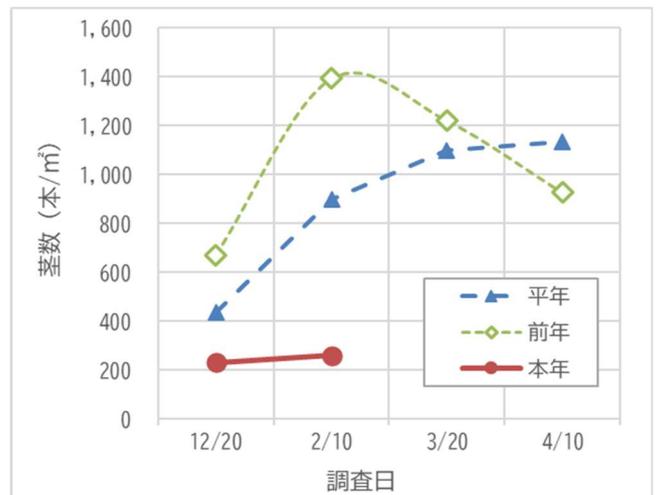
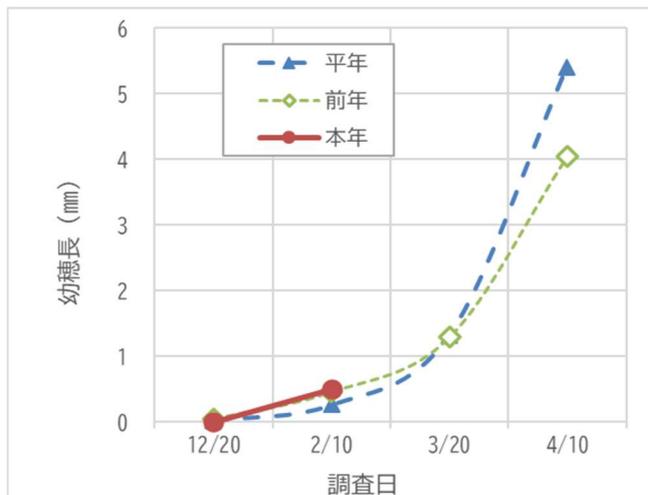


図2 幼穂長と莖数の推移

3 今後の管理

(1) 麦踏み

- ・越冬後の麦踏みは生育のバラツキを解消する効果があり、生育が再開する起生期（平均気温4℃）以降の作業が有効です。
- ・麦踏みの回数は、宮城県の慣行栽培では通常 2～3 回ですが、暖冬により伸びすぎ、生育が進みすぎたほ場では、大きな効果が期待できるので回数を多くして、生育量を調節しましょう。
- ・麦踏みは、茎立ち（主稈長 2cm、幼穂長 2 mm程度）前までに行いましょう。
- ・生育量が足りない場合やほ場が湿っている状態での麦踏みは逆効果となりますので、麦の生育状況とほ場の状態に注意してください。

主な効果

○麦への効果

分げつ相互の生育調整、耐寒性・耐干性の強化、徒長や茎の早立ちの防止、分げつの増加、穂揃いの均一化、深根化、稈の強剛化

○土壌への効果

霜柱・干害による被害の軽減、強風による土移動の軽減と防止

(2) 追肥

麦類の施肥は生育ステージに応じた必要量を分施するのが基本です。生育量や幼穂長を確認し、必要に応じて適期に追肥を行いましょう。

今作は特に生育が遅く、鳥害による被害を大きく受けたため、株直し追肥を実施し、生育を回復させましょう。

表 3 追肥時期とその目的、追肥判断の目安となる生育量の目安

追肥の時期	起生期 (茎数400本/㎡未 満)	幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30～50 mm)	穂揃期 (8～9割出穂)
目的	茎数の増加 葉色の回復	有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	子実タンパク質含有率 の向上
追肥時期	2月中下旬 (平均気温が4℃に達 した頃)	3月下旬～4月上旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
生育指標目安	-	86 万	155万	142万～153万
葉色(GM値)目安	-	45	37	40
草丈cm×茎数/㎡目安	-	19.1千	41.9千	35.5千～38.3千
茎数/㎡目安※	400本/㎡	1450本/㎡	1190本/㎡	-
N成分量 (kg/10a)	1～2	2.5	2.5～5	2.5

※茎数の目安は生育調査ほ場の各時期草丈の平年値を基に試算したもの。

【幼穂長の測定方法】

- ①生育中庸な株の長い茎を 3 本以上採取する。
- ②茎の膨らんでいる部分を手で剥く、またはカッターで縦方向に切り裂く。
※ 勢いよく剥くと幼穂がちぎれてしまうので慎重に！
- ③茎の中心部にある幼穂の長さを測定する。
※ 芒は幼穂長に含めない！

(3)排水対策

麦は湿害に弱い作物です。融雪や急な降雨等により湿害が発生する恐れがありますので、明きよと暗きよの再確認を行いましょう。

- ・明きよ…手直し、管理機等で溝を作りましょう。
- ・暗きよ…栓が閉じられていないか再確認しましょう。
- ・湿害の影響（出芽後期～分けつ期）
…根の伸長抑制による浅根、分けつの減少、葉の黄化、生育遅延

(4)雑草防除

管内のほ場ではスズメノテッポウ（イネ科）やタネツケバナ（アブラナ科一年生雑草）の発生が確認されました。密集すると小麦の減収を招くため、除草剤を使用して早期に防除しましょう。

- ・スズメノテッポウ…ハーモニーDF（雑草茎葉散布又は全面散布）
（一年生広葉雑草） 播種後～節間伸長前
ハーモニー細粒剤F（全面土壌散布）
播種後～小麦3葉期まで（雑草発生前～発生始期）
- ・一年生広葉雑草…アクチノールB乳剤（雑草茎葉散布又は全面散布）
穂ばらみ期まで（雑草生育初期）
エコパートフロアブル（雑草茎葉散布又は全面散布）
小麦節間伸長開始期まで（雑草生育期）但し、収穫45日前まで

※ 農薬の使用にあたっては、
農薬のラベルの記載の内容
を確認してください。

東北地方1か月予報

(2月21日から3月20日までの天候見通し)

令和8年2月19日
仙台管区气象台 発表※抜粋

<予想される向こう1か月の天候>

東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	20	30	50
【降水量】	東北地方	30	30	40
【日照時間】	東北地方	40	30	30

<気象経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	10	10	80
2週目	東北地方	20	30	50
3～4週目	東北地方	30	40	30

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

